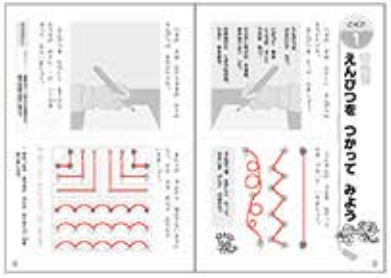


こくご　第1回

小学校に入学すると、ひらがなの学習が始まります。したがって、年生になる前に、正しい鉛筆の持ち方を習得することが非常に大切です。絵のように鉛筆を正しく持っているかどうか、確認してあげましょう。鉛筆の持ち方だけでなく、書く時の姿勢も大切です。書くことに夢中になると、顔をテキストに近づけてしまいがちです。そんな時は、「疲れちゃったかな。でも、がんばって背筋をぴんと伸ばそうね。」と、優しく声をかけてあげてください。なお、ここでは書く速さよりも「丁寧さ」を重視してください。点線や枠から多少はみ出ていたとしても、丁寧に書こうとする姿勢が見られたら、大いにほめてあげましょう。

さんすう　第1回

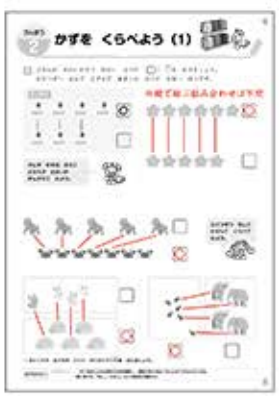
指定された条件に従い、弁別分けをする問題です。それほど難しい課題ではないと思いますが、指定された条件に従って情報集めをする力は算数の学習を進める上で大切なものです。図形の学習で「四角形」の概念を理解するにあたっては、さまざまな図形の中から「4つの直線で囲まれた図形」という条件で弁別分けをすることになります。今回の学習は、そういった問題に取り組む際の土台となる練習です。なお、小学校低学年までは、楽しみながら算数に取り組むことが大切ですので、問題を終えたら自由に色を使っていくようにアドバイスするとよいでしょう。

こくご　第2回

小学校でもひらがなを学習しますが、入学前にある程度覚えておくとよいでしょう。ここでは「習書き」を通して、ひらがなの字形と筆順の習得を目指します。テキストの字の上を直接なぞっても、テキストを見ながら机の上に大きく習書きしてもかまいません。その際、「いち・に……」と筆順を声に出すとよいでしょう。習書きで字形をある程度習得したあと、下段を鉛筆でなぞります。線から多少はみ出ていたとしても、書きおえたら、大きな花丸をつけてほめてあげましょう。達成感とおうちの方からはめられた喜びが、お子さまのやる気を育みます。60～63ページの練習ページは、お子さまの習熟度に応じてご活用ください。

さんすう　第2回

すでに数を数えられるお子さまは、絵を見てすぐに数え始めるかもしれません。もちろん、その方法で正解できたら、大いにほめてあげてください。しかし、この学習のねらいは、一対一対応の考え方を知り、そのよさを感じることです。物と物を直接対応させる「直接比較」という方法は、比較における最も基本的な考え方ですが、中・高学年になっても難しい問題を考えたり、考えを整理したりするときに有効な方法です。線を引くことなく数の多少比較ができるお子さまにも、「本当にあっているか、線を引いて確かめてみよう」とはたらきかけてみてください。

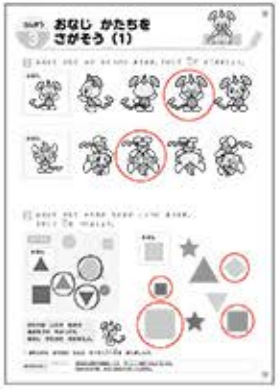


こくご　第3回

新しく出会う人とコミュニケーションを図るきっかけとして、あいさつを取り上げています。取り組みやすさを考慮して設問形式にしていますが、正解・不正解を気にする必要はありません。不正解であった場合は、その答えを選んだ理由を聞いてあげましょう。すぐに否定したりせず、お子さまなりの考えをくみ取ったうえで、設問の趣旨を教えてあげてください。正解の場合は大いにほめ、あいさつのよさについて話し合ってみましょう。あいさつの習慣が身についていないようであれば、まずはご家庭であいさつを交わすよう心がけてください。「おはよう」と丁寧になぞれたら花丸をつけ、お子さまの学習意欲を育みましょう。

さんすう　第3回

小学校低学年の算数学習は、図形の単元に比べ数に関する単元が圧倒的に多くなっています。高学年になった時に図形に対して苦手意識をもたないよう、今のうちから日常生活においてさまざまな図形に親しみ、図形に対する認識力や想像力をつけていきましょう。1のイワンコの問題で、お子さまが「同じ絵はない」と戸惑うかもしれません。その際は、「紙をぐるっと回したときに同じ絵になるものでもいいんだよ。」とアドバイスしてあげてください。また2の問題で、□と◇はどちらかを回してみるとぴったり重なることから、同じ形であるといえます。



けいけん　第1回

体験を通じて、生活する力を培い、自分やおうちの方への関心を深めていきます。実際に体験してみることで、「できた」という喜びを感じやすくなり、「どうすればいいんだろう。」「もっとこうするといいんじゃないかな。」と、考える力が育まれていくことでしょう。今の段階では、自分のことを少しずつできるようにしていければかまいません。お手伝いは、世段の生活をおうちの方の存在を見つめなおし、好奇心いっぱいに興味を広げていくためのきっかけとして活用してみてください。

こくご　第4回

言葉を用いた遊びとして、しりとりとなぞなぞを取り上げています。しりとり遊びの前段階として、始めに「い」と「か」のつくものを探すという活動に取り組みますが、おうちの方もぜひ一緒に考えてあげてください。おうちの方が、お子さまが知らない単語を単げることは、お子さまが新たな語彙を獲得するきっかけになります。「い」や「か」のつくものの名前を書く際、お子さまが戸惑っている場合は、記入欄のそばにお手本を書くなどして手伝ってあげてください。今回の学習をきっかけに、ご家族でしりとりやなぞなぞをして遊び、楽しみながらお子さまの語彙を増やしていくとよいでしょう。